

# 地方県における 県MC救命士体制による教育展開

～岐阜県での取組～

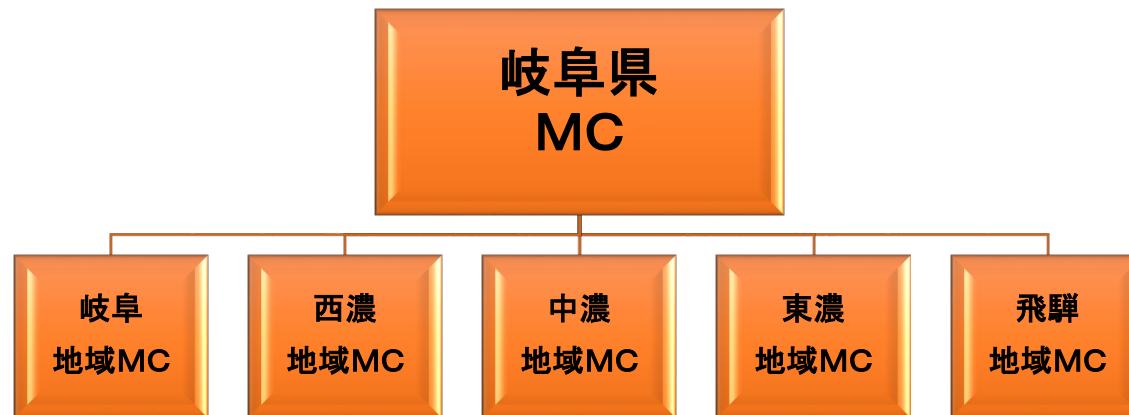
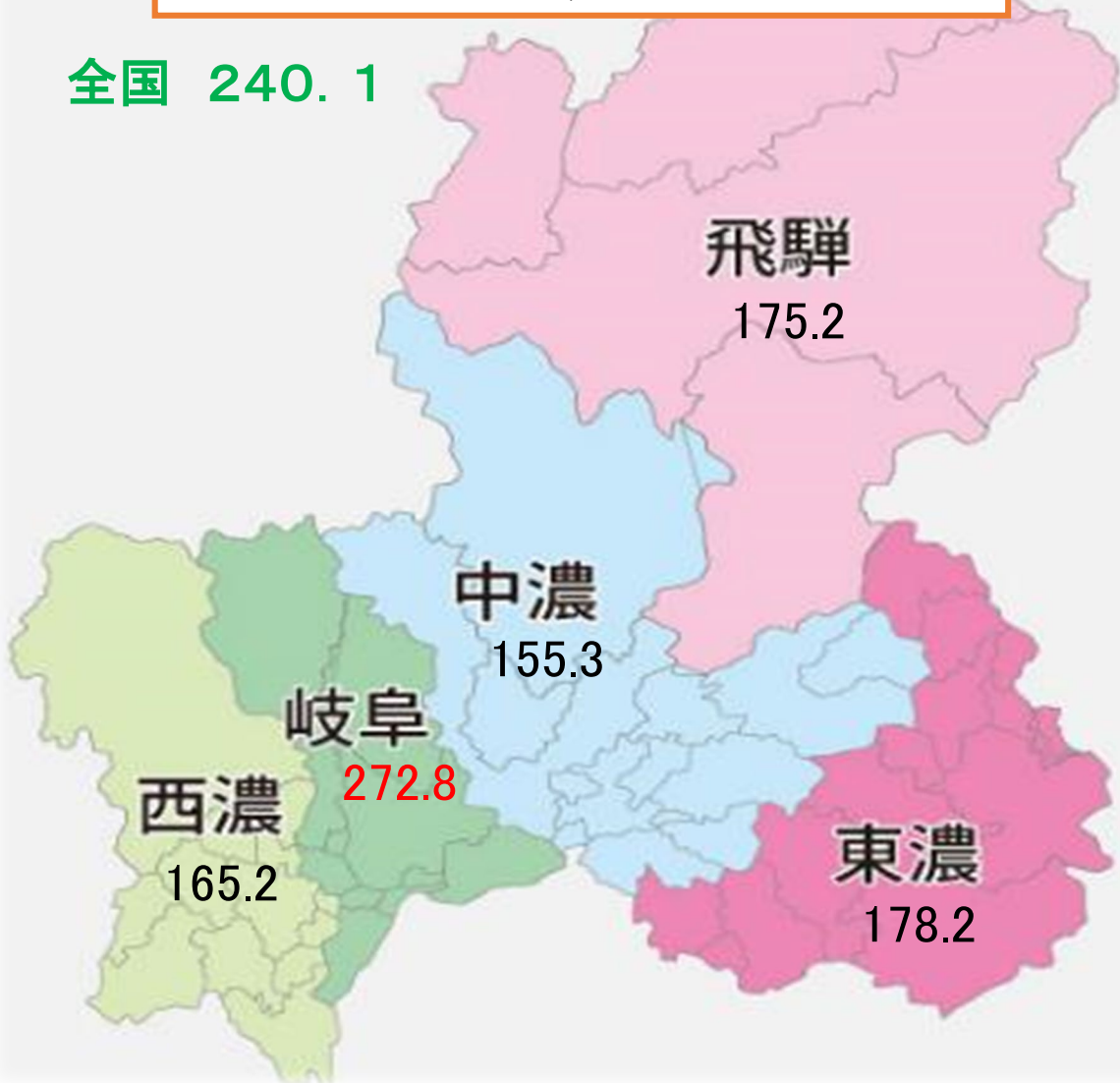


岐阜県メディカルコントロール協議会  
岐阜県消防学校 安藤 竹晴

# 岐阜県メディカルコントロール体制

圏域別医師数(人口10万人当たり)

全国 240.1



岐阜県人口	約197万人
消防本部数	20消防本部
救急隊員数	1,818名
救急救命士数	739名
運用救命士	622名
救急件数	92,510件/年

# 救命士再教育とMC救命士体制

## 救急救命士に対する再教育ガイドライン

岐阜県メディカルコントロール協議会

平成24年4月1日

平成25年4月1日

平成26年10月17日

平成28年4月1日

令和元年10月28日

### はじめに

救急救命士が行う高度な救急救命処置について、その質を確保し維持向上を図るためには、メディカルコントロール体制の中での病院実習や日常的な教育訓練を受けることが不可欠である。

また、各地域において運用救命士数の増加に伴い、各消防本部や医療機関での再教育の負担が増大していることから、「救急救命士等を指導する救急救命士（以下『MC救命士』という）が、県域及び地域の中で活躍できる体制の構築が進められている。

本ガイドラインは、救急救命士が、生涯教育として知識や技能の再履修を行うだけでなく、救急現場の活動に経験豊富な指導者が他の救急救命士に対して、日常的に教育することや、取得することが望ましい技量を明示することでそれに向かい自ら進んで学習し、県内の病院前救護のレベル向上を図り県内全域での安全・安心な暮らしに貢献することを目指す。

## 岐阜県MC救命士の仕事

### ・岐阜県MCが主催する教育への参加・企画・運営

救急救命士集合研修

救急救命士処置範囲拡大追加講習

MC救命士養成研修

薬剤・挿管修了実施

通信指令教育

### ・岐阜県MCが主催する各種会議への参加

救急隊員プロトコール改定に伴う参画

地域MC協議会の委員として会議に参加

### ・各学会への参加、発表

# 救命士再教育 ～集合研修～



	受講者数	研修内容
H25	472	実技 「BLS」
H26	478	座学 「新処置に係る追加講習講義」
H27	509	実技 「静脈路確保」
H28	540	座学 「ガイドライン2015 及び プロトコール改正」
H29	573	実技 「産科救急」
H30	598	座学 「事後検証体制 及び 効果的な事後検証」
R1	613	実技 「判断・観察(アセスメント)」

# 救急救命士集合研修実施の流れ

第1回 企画会議(テーマ決定)



第2回 企画会議(内容確定)

MC救命士によるプレコース



各地域で研修実施



教育効果を評価 学会等での成果報告

次年度以降の教育へ

# 各地域での開催実績



	開催回数	参加人数	他地域からの参加指導者
A地域	5回	174名	28名
B地域	3回	99名	8名
C地域	3回	107名	9名
D地域	3回	98名	5名
E地域	2回	72名	8名
合計	16回	550名	58名

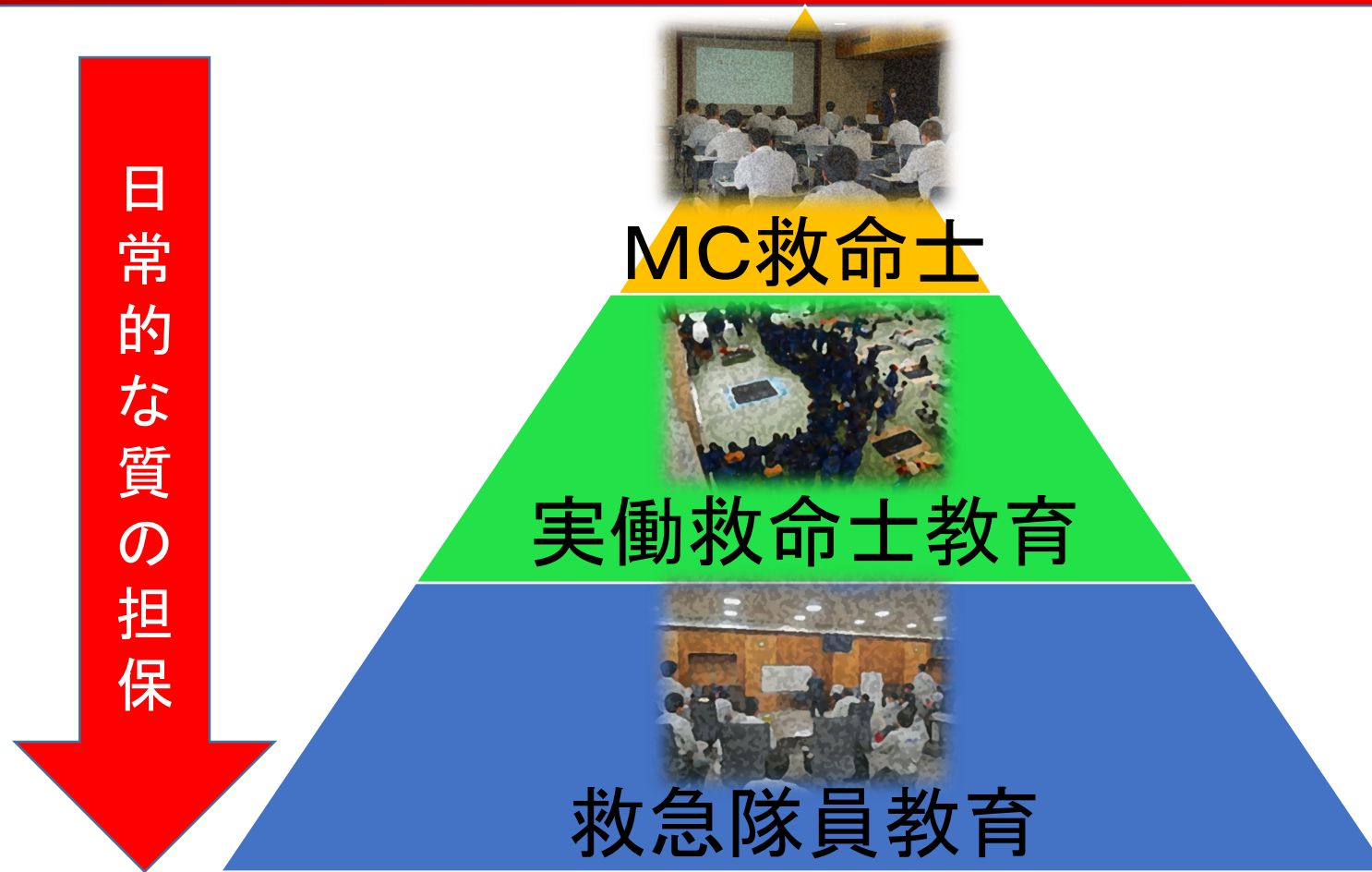
地域MCを越えた指導者（MC救命士）の参加で地域格差の是正  
MC体制のPDCAサイクルの一つとして現場活動の改善

# 受講救命士の意見

- 若い救命士の考え方が分かって逆に勉強になった
- 先輩救命士の観察方法、判断について勉強になった
- 他消防本部で実施されているやり方を実施したい
- 学んだことを現場で実践できるよう継続して訓練したい
- 所属本部での救急隊員教育にも取り入れたい
- 所属本部で同じ症例を実施して底上げを実施したい

企画段階からMC救命士が主体的に計画、教育を実施することで、各地域の研修の質向上につながり、各所属での救急隊員教育につながっている

# まとめ



MC救命士が主体となり、地域間で連携することで教育の質を担保  
県全体で教育を実施することで地域の問題を補完し、病院前救護の質向上につながる